

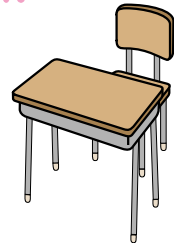
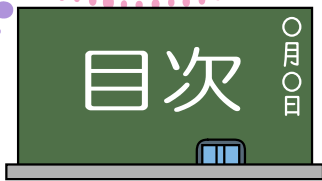
教師の「**教えたい**」ことを  
児童生徒の「**学びたい**」ことへ



# 鹿嶋市 授業改善プロジェクト ガイドブック

令和6年度版

鹿嶋市教育委員会 教育指導課



1 主体的・対話的で深い学びを実現する  
改善6つの視点 … 1

- ①ねらいの明確化
- ②追究意欲を高める学習課題の工夫
- ③自力解決（パーソナルワーク）の場の設定
- ④主体的・協働的な学び合いの充実
- ⑤まとめや振り返りによる学びの自覚化
- ⑥適切な学習評価

2 <参考> 「ラーニングマウンテン」  
～児童生徒と共有する学びのプラン～ … 9

3 鹿嶋市国語科ガイドライン … 10

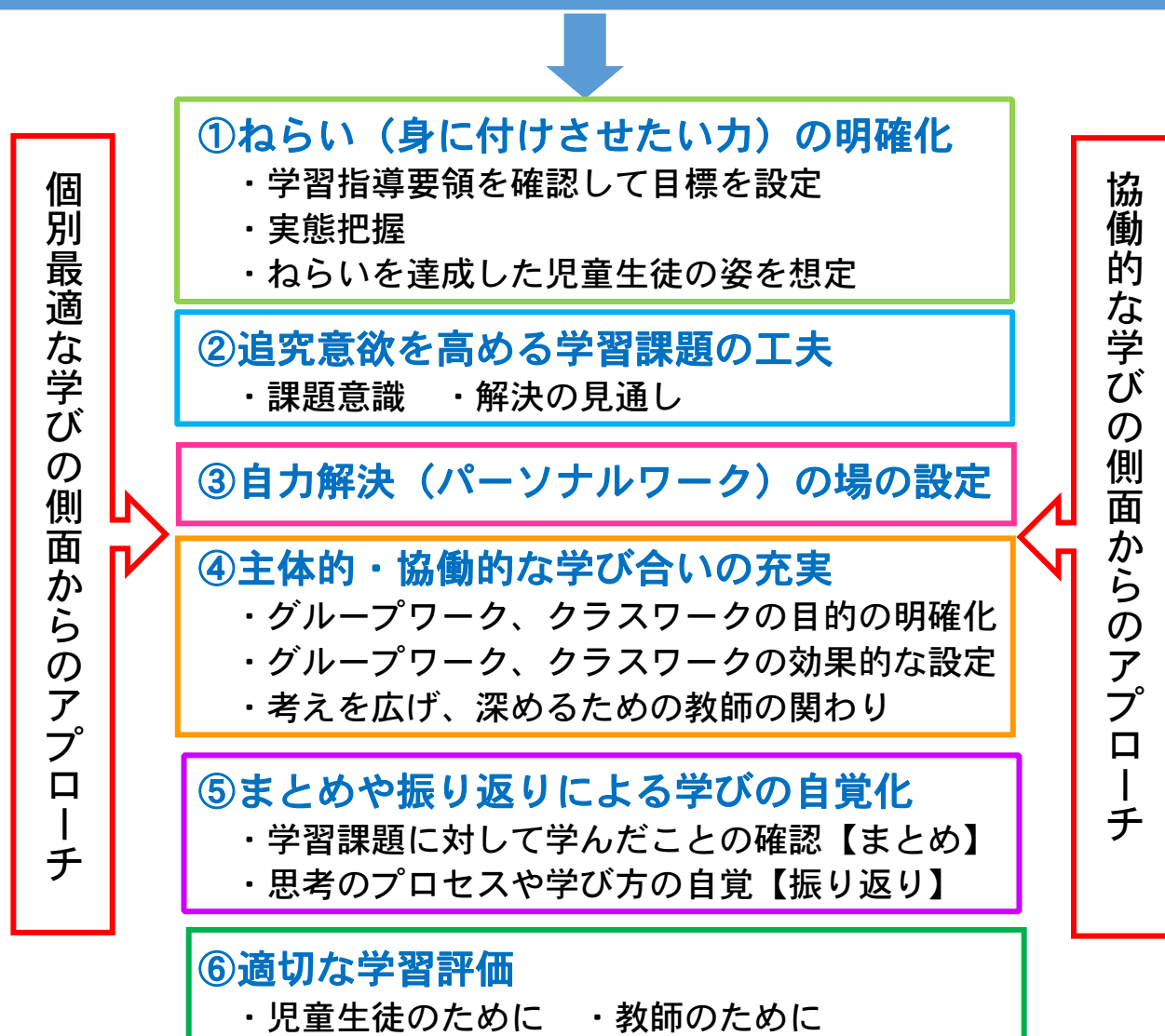
4 鹿嶋市算数・数学科ガイドライン … 11

5 鹿嶋市英語教育ガイドライン … 12

6 鹿嶋市教育DXガイドライン … 13

7 学習指導案作成における留意事項 … 14

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善6つの視点  
～教科等横断的な問題発見・解決能力の育成を目指して～



<授業改善のポイント>

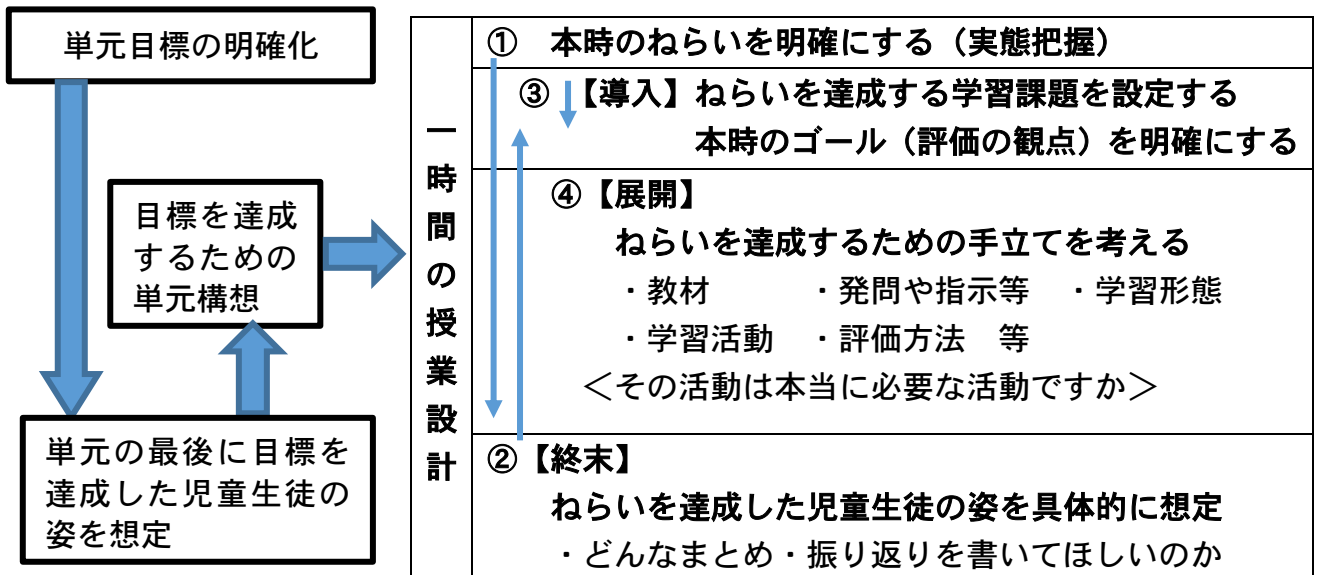
到達すべき目標に照らした学習評価（評価規準）との関連を図り、身に付けるべき資質・能力を中心に据えた「指導と評価の一体化」を図った授業改善

- ☆主体的に学習に取り組めるよう「学習の見通しを立てる場」「学習の振り返りをする場」を設定し、自身の学びや変容を自覚できるようにする。
- ☆「対話の場」を設定し、自分の考えなどを広げたり深めたりすることができるようにする。
- ☆「学びの深まり」をつくり出すために、児童生徒が考える場と教師が教える場をどのように組み立てるかを検討する。

# ① ねらいの明確化

ゴールから逆算した  
授業設計を

- 学習指導要領を踏まえ、本単元で身に付けさせたい資質・能力が明確になっていますか？
- 本時のねらいが単元の目標を踏まえた適切なものとなっていますか？



# ② 追究意欲を高める学習課題の工夫

- ねらいの達成につながり、児童生徒自身が必要感のある探究的な学習課題を設定していますか？
- 児童生徒が「考えたい」「学びたい」と思えるような課題意識を高める工夫をしていますか？
- 課題解決への見通しを児童生徒と共有していますか？

## ＜効果的な学習課題の条件の例＞

- ◇単元を通して課題意識が持続するもの（単元を通した学習課題）
- ◇ねらい達成に向けて追究する価値のあるもの
- ◇多様な見方・考え方が引き出されるもの
- ◇適度な難易度で解決の見通しをもつことができるもの
- ◇考える視点が明らかになるもの【視点例：比較・分類・関連・多面的・規則性】

教師の「教えたい」ことを、児童生徒の「学びたいこと」へ

- ▼「文章構成を考えよう」→ ○「文章を分類して順序を考えよう」
- ▼「武士のくらしを考えよう」→ ○「貴族のくらしと武士のくらしを比べるとどのような違いがあるだろう」

### <課題意識を高める工夫の例>

- ◇児童生徒の興味・関心を高めるように（日常生活の現象や身の回りに関わるもの等）
- ◇驚きや不思議さ、必要感、児童生徒がこれまでもっていた見方や考え方では説明できないなど、児童生徒が自分の問題として受け止められるように
- ◇児童生徒同士の意見の違いを生かすように
- ◇課題の提示の仕方を工夫する

### <解決の見通しをもたせる工夫の例>

- ◇単元のゴールモデルを提示し単元全体の見通しをもたせる（評価の観点の共有化・明確化）
- ◇既習事項を基に解決の方法を考えさせる
- ◇課題に対する予想をさせる
- ◇児童生徒の予想を生かした学習計画を立てる  
（何を調べるのか・どのように調べるのか・どのような順で調べるのか・どのようにまとめるのか）

## ③ 自力解決（パ・ツワーク）の場の設定

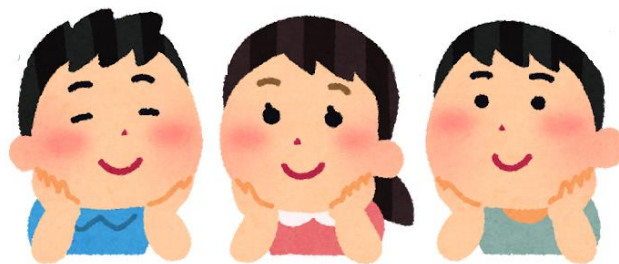
- 個人で思考する時間を確保していますか？
- 思考を伴う書く活動（書く活動の中で、考えを整理したり、新しい考えを生み出したりすること）を取り入れていますか？

#### <思考を伴う書く活動の例>

- ・条件を与える
- ・根拠を伴って書かせる
- ・教科特有の用語を用いる
- ・教科の特質を生かす  
（式、図、表、グラフ 等）

#### <自力解決の場での指導のポイント>

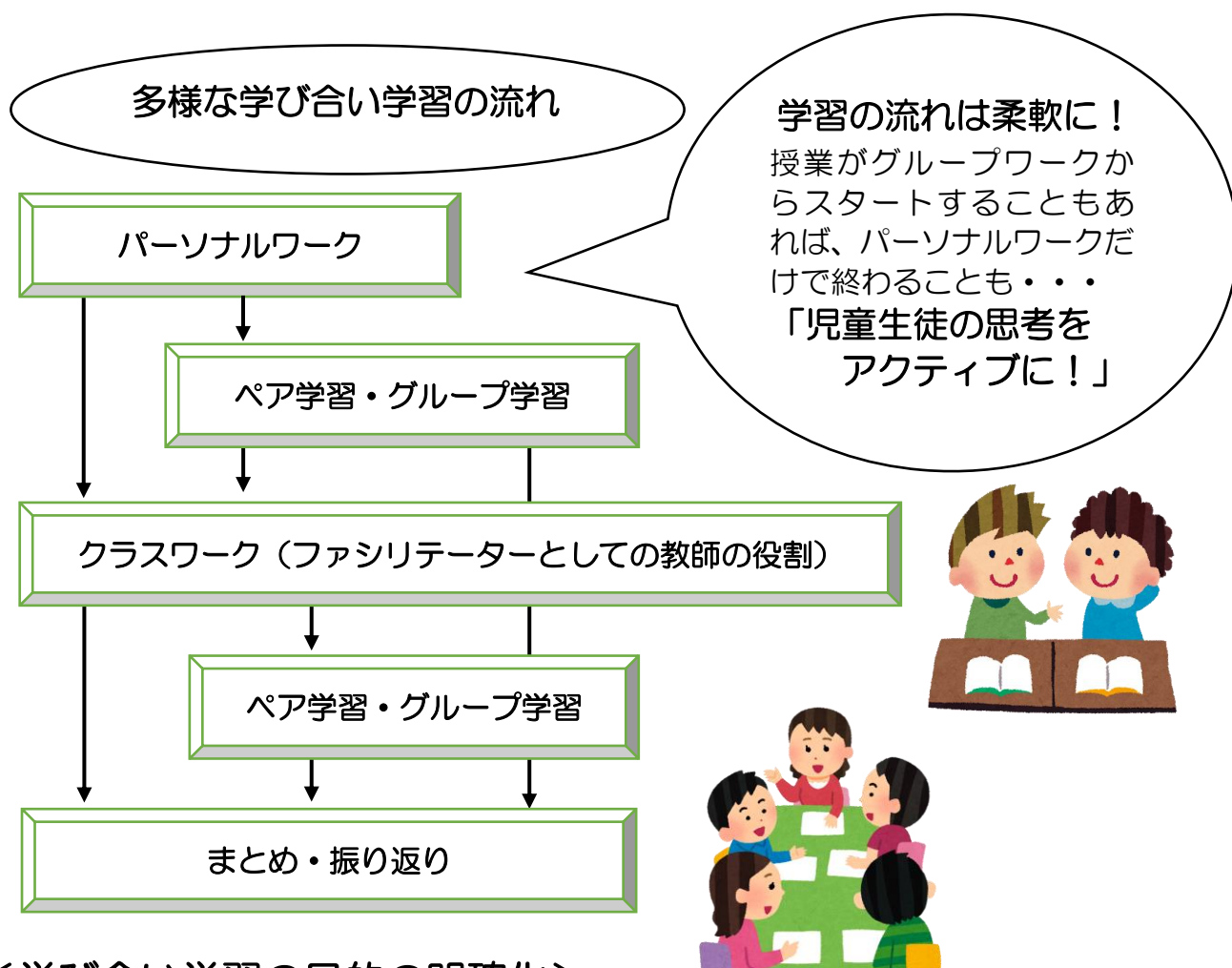
- ・机間指導で個に応じた適切な支援をする。  
※ヒントカードや思考を助ける教具の準備
- ※早くできた児童生徒には他の考え方を
- ・児童生徒の思考の傾向をつかみ、次の展開（意図的指名）を組み立てる。





## ④主体的・協働的な学び合いの充実

- ねらいの達成に向けて、効果的な学び合い学習になっていますか？
- 児童生徒にとって目的や方法が明確で、必然性のある学び合い学習になっていますか？
- クラスワークの中で、学びを広げ深めるための教師の役割は適切ですか？



### <学び合い学習の目的の明確化>

#### ◇ペア学習の目的（例）◇

アウトプットを増やすことで

- ・自分の考えを明確にする
- ・理解の確認をする
- ・自分の考えの不十分さに気付く
- ・考えを補充・深化させる

#### ◇グループ学習の目的（例）◇

やりとりを通して

- ・1つの考えを練り上げたり、新しい考えをつくり上げたりする
- ・多様な解釈を交流し、一人一人の思考を深めたり、広げたりする

## ファシリテーターとしての教師の役割

子供同士の考えをつなぎ、子供とともに授業を創造する役割。授業におけるファシリテーター（教師）は、知識や解決策を提示するのではなく、子供がもつ経験値や知識、感情を尊重し、寄り添い、深い学びの環境づくりをします。



### 【児童生徒の考えをつなぐ言葉かけ（例）】

- ◆ 「それってどういう意味？」 <意味を問う>
- ◆ 「どうしてそう思ったの？」 <理由・根拠を問う>
- ◆ 「この続きをどう説明する？」 <続きを問う>
- ◆ 「何を使って考えればよいのかな？」 <ヒントを問う>
- ◆ 「この○を△で表すとどうなるのかな？」 <他の表現を問う>
- ◆ 「それって偶然にできたのではないかな？」 「本当にそうかな？」  
<（正しい答えに対して）否定的に捉える>
- ◆ 「これならいつでも使えそうだね。」 <肯定的に捉える>
- ◆ 「〇〇さんの考えをもう一度説明できるかな」 <考えの再生>
- ◆ 「この考えのよさはどこだろう？」 「どうしてこのような考えが浮かんだのかな？」 <発見と推測>



### 【児童生徒の考えを深める問い返し（例）】

- ◆ 「AさんとBさんの考え方の違う点は？ 同じ点は？」 <比較>
- ◆ 「同じ考え方をまとめてみよう」 <分類>
- ◆ 「どんな関係があるのかな？」 <関連付け>
- ◆ 「立場（見方）を変えると何が言えるかな？」 <多面的・多角的>
- ◆ 「つまり、どんなきまりがあると言えるかな？」 <規則性>
- ◆ 「〇〇さんの考えのよいところはどこだろう」 <発見>

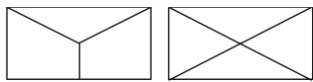
## <効果的な学び合い学習の工夫（例）>

### ◇思考ツールの活用◇

#### 【分類する（例）】

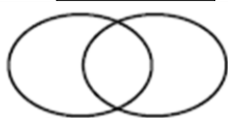
考えをジャムボードや付箋に書いてグルーピング(矢印や囲み)する

#### Yチャート・Xチャート



物事をいくつかのまとまりに分類する

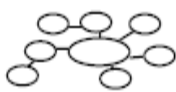
#### ベン図



相違点・共通点を見付ける

#### 【広げる（例）】

#### ウェビングマップ



考えを広げ、新たな考えを生み出す

#### 【練り上げる（例）】

#### ピラミッド



抽象化する（具体化する）

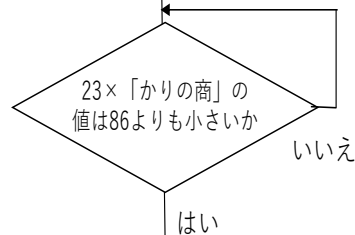
考えを出し合い、さらにより考えをホワイトボード等に言葉・図・グラフ等で表す

#### 【プロセスを可視化する（例）】

#### フローチャート

割り算開始 式 $86 \div 23$

「かりの商」を入れる



プログラミング的に手順を考える

### ◇知識構成型

#### ジグソー法◇

- ① 課題別グループで協力して課題に取り組み、見解を共有する。
- ② 元のグループに戻って、それぞれが作成した説明を話し合いにより統合することで、答えを導き出す。
- ③ 各グループの答えと根拠をクラス全体で発表し合い、より深い理解へとつなげていく。

### ◇ワールドカフェ◇

- ① 与えられたテーマについて各グループで議論する。
- ② 説明者以外は他のテーブルへ移動し、そのグループの説明を聞いてから、さらに議論を深める。
- ③ 元のグループに戻り、他のグループから得られた意見や考えを統合し考えを深める。

### ◇思考の可視化の工夫◇ 【板書】

「一連の学習の流れを児童生徒の思考の流れに沿って構造化することで、一目で授業全体を振り返ることができます。」

- 板書から授業を構想する
- 児童生徒と共に構成を考える
- 構造的な板書で思考を整理し、思考を促す（**比較**：違いが見えるように・**分類**：まとまりが見えるように・**関連**：線でつなげて 等）



## ⑤まとめや振り返りによる学びの自覚化

- 学習したことを自分の力でまとめる時間を確保していますか？
- 課題に対応した、適切な表現になっているかを確認していますか？

### 【まとめ（学習課題に対して学んだことの確認）】

- ◆みんなで調べたり、考えたりしたことを基にしながら、学習課題に対する答えになるように、自分の考えをまとめること。
- ◆クラスワークで、たくさんの考えや意見を出し合い、その中から児童生徒がよりよいものだと考えるものを選択できるようにする。
- ◆書く条件、字数、時間を提示し、負荷をかける。  
☆その結果として「B 規準以上」を目指す。

- 学習したことを振り返る時間を確保していますか？
- 自分の学んだことや学び方に対して成長の実感や達成感をもたせていますか？

### 【5つの振り返りの学習（自己調整力・メタ認知の促進）】

- ◆これまで学習してきたこと分析する振り返り
- ◆自分が学習した結果を分析する振り返り
- ◆学びの過程（プロセス）を分析する振り返り
- ◆自己の学びの変容を分析する振り返り
- ◆次への学習に向けての振り返り

児童生徒の実態や教科に  
応じて、単元の途中や  
終わりで、効果的に  
学びを自覚できるように。

### 【振り返りのポイント】

- ① 振り返りは「資質・能力」の視点  
※「活動ベース」ではなく「資質・能力ベース」での振り返りを
- ② 振り返りの共有  
※よい視点からの気づき、新たな問いが生まれた例の提示
- ③ 振り返りの視点の確認
- ④ ICTなどを活用した記録

#### 「振り返り」は「学習活動」

- ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価そのものではない。
- ・評価する際に考慮する材料の一つとして用いる。



## ⑥適切な学習評価

- 「どの場面で」「どんな方法で」評価するのが、本時のねらいに対して適切ですか？
- 本時の学習の「振り返り」（評価規準や評価の方針）までを「見通す」時間（本時の課題、どのように学習を進めていきたいか・進めていくかについての確認）を設定しましたか？
- 児童にとって、毎時間のゴールが明確になっていましたか？
- 明確な「評価規準（B）」をもって授業を展開することができましたか？
- B規準に達しない児童生徒への個に応じた支援をしていますか？

### 【児童生徒のために】

- 授業内容の理解・定着の確認
- つまずきへの対応

指導と評価の  
一体化

### 【教師のために】

- 指導の適切さの検証
- 授業改善

### 【評価方法 例】

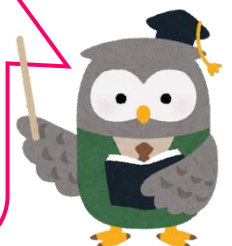
- ・ペーパーテストによる評価
- ・パフォーマンス評価
- ・ポートフォリオによる評価
- ・ループリックによる評価
- ・観察による評価
- ・自己評価・相互評価

### 【学習評価のポイント】

- ◆児童生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価しましょう。
- ◆児童生徒が学習したことの意義や価値を実感できるように評価しましょう。
- ◆単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通しながら、評価の場面や評価の方法を工夫しましょう。
- ◆学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにしましょう。

学習評価は、結果として「児童生徒にどのような資質・能力が身に付いたか」ということを問うだけのものではありません。**授業や学びの過程を通して、児童生徒がどのように成長したのか、その成長のために教師はどのような支援をしたのかを評価する**ものです。（指導と評価の一体化）

一人一人の児童生徒の成長の過程を見取り、資質・能力を育むことに対する支援の取組が求められることになり、**指導の在り方そのものも問われること**になります。



<参考文献・参考資料>

- ・菊池英慈 樺山敏郎 折川司 高木展郎 編著「資質・能力を育成する 授業づくりの学習評価」（明治図書 2021年）
- ・田中保樹 三藤俊樹 高木展郎 編著「資質・能力を育成する授業づくり 指導と評価の一体化を通して」（東洋館出版社 2021年）
- ・樺山敏郎 著「読解×記述」（教育出版 2022年）
- ・澤井陽介 著「できる評価・続けられる評価」（東洋館出版 2022年）
- ・小松市教育委員会 「平成28年度 わかる授業プロジェクト リーフレット」



## 生きて働く知識及び技能を

「必要だから、たくさん使う、生かす、身に付ける」  
ことができる授業にするために

### ◎ 「言葉に対する厳密さ」をもたせる。

- ・「文の誤りを正す」
- ・「意味を変えずに言い換える」
- ・「引用する」

→意味が通ればよい、という「ゆるみ」をなくす。

- ・児童生徒は主述のねじれた文を正しく直すことができますか？
- ・児童生徒は引用や抜き出しのルールを理解し、守っていますか？

### ◎ 知識・技能の習得に「必要感」をもたせる

- ・小単元での取り出し指導だけでは身に付かない。
  - ・使う機会を数多く。（話す・聞く、書く、読む単元で）
  - ・文法（品詞、敬語等）の単元でも「課題解決学習」を
- 知識・技能の習得に「必要感」をもたせる。

- ・小単元で学んだことを、他の単元で活用させていますか？
- ・一斉指導をして文法ワーク、という授業になっていませんか？

### ◎ 負荷をかける

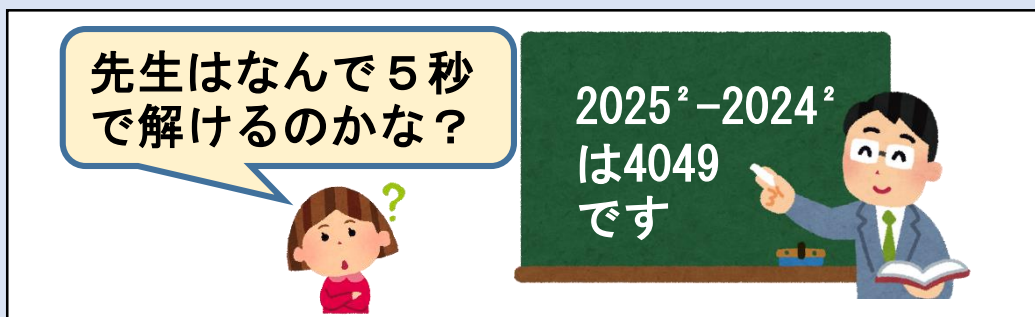
- ・必要感のある、アウトプットを伴う課題設定。
  - ・文章を書く活動では「時間」「字数」「条件」
  - ・多くの種類の文章を読む、書く。
- 練習量の確保、初めて読む文章でも読み解ける力を。

- ・粘り強く取り組みたくなる課題を設定していますか？
- ・曖昧な条件設定で文章を書かせていませんか？
- ・初めて読む文章にも使える「読み方」を指導していますか？

# 算数・数学科授業ガイドライン

学習者にとって「算数・数学の授業が楽しい」  
指導者にとって「算数・数学の授業が楽しそう」  
になるために

- **何ができるようになったらB（評価）ですか**
  - ・ どの問題をどこまで解けたらいいかという規準（基準）
  - ・ 何を記述できたらいいかという規準（基準）
- **追究意欲を高める（やらされ感のない）学習課題ですか**



- ・ 「なぜだろう・・・？」という疑問
- ・ 「もしかしたら・・・？」という予想
- ・ 「こうすれば・・・？」という方針
- ・ 「それならば・・・？」という発展
- **タイムマネジメントはできていますか**
  - ・ 安易に活動時間（自力解決・話し合い）を延長しない
  - ・ 適用問題で評価するなら、その時間を確保する
  - ・ 単元を通した柔軟な計画
- **学びが深まるような役割を演じていますか**
  - ・ 考えをつなぐ教師
  - ・ 考えを問い返す教師
  - ・ もの分かりの悪い教師
- **単元に習熟の程度に応じる手立ては位置付けていますか**
  - ・ レベル別（コース別）の問題
  - ・ 「集まれ方式」による補充指導



単元づくり・授業づくりについて

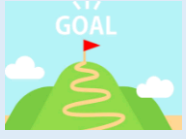
□ **学習到達目標(CAN-DOリスト)に向かうための単元づくり**

単元づくり

育てたい児童生徒像(学年末)に向かうため、単元を通して身に付けたい力を「学年のCAN-DOリスト」で確認する。

※CAN-DOリストの活用ができていないと、「教科書の内容すべてを教えないと不安・・・」、「教科書(の範囲)を終わらせることが目標に・・・」と、本来の指導目標に向かわず教えていることになる。

□ **単元終末の言語活動に向けた学習のプロセス**



・目的/場面/状況の明確化。インプットと効果的に関連付けたアウトプットの設定  
・ゴールに向かうスモールステップの手立て(触れ・慣れ・使いながら)  
(言語活動A → 言語活動B → 言語活動C → … → 単元終末の言語活動 [Goal Activity])

□ **学習者と共有**

学習者との共有内容(学習到達目標・単元の評価規準・単元末の言語活動・パフォーマンステストのルーブリック)と共有時期(単元の前半で共有)

□ **明確な評価規準と適切な評価時期**

・評価規準を設定する際に「ここがGoal」という「具体的な児童生徒の姿」を想定。  
・指導に生かす評価と記録に残す評価を分ける。(記録に残す評価場面を精選する)  
・年間を通して5領域×3観点をバランスよく評価(単元ごとに全領域・観点をカバーする必要はない)

□ **児童生徒に届く課題の提示**

児童生徒の思考のスイッチを押す課題・授業とのリンクが明確な課題がある。

授業づくり

□ **45分・50分のタイムマネジメント**

活動時間のバランス。フォーカスしたい活動を絞る。一人でもできること、クラスでしかできないこと。

□ **予備知識(既習・既知)と新しい話題をつなぐための問いかけ**

児童生徒の考えを引き出すための問いかけ、児童生徒の予備知識を刺激するための問いかけがある。

□ **Personalizedされた言語活動**

学習している内容に関する自分の考え、気持ち、選択や意見を表現したり、自分の経験に基づいて話したりする時間及び活動(personalization)がある。

鹿嶋市の scaffolding

\*scaffolding [足場掛け]とは、学習者が自力で到達できない目標地点へ支援者がサポートをすることにより到達させるという概念です。



小学校



中学校

**話すこと[発表]** 聞き手に対して一方であ  
ア即興での発表も取り入れる  
原稿を事前に用意して暗記×⇒  
メモやキーワードを頼りにしながら  
即興で発表。  
イまとまりのある内容を話す。  
※小学校の目標にはない  
ウ聞いたり読んだりして考えたこと感  
じたこと、その理由などを話す。

児童を勇気づけ、次のステップへ向  
かわせるためのフィードバック

自己調整を促すための  
ルーブリックを用いたパフォーマンステスト

Small Talkでリテリングの機会を入れる

ALT



児童生徒を勇気づけ、つまづきをサポートするための  
モニタリングとリキャスト



**話すこと[やり取り]**  
ア即興で。  
原稿を事前に用意、練習×⇒  
イ整理(伝える項目を精選、適切な順  
序に並べ替え)して伝える  
ウ聞いたり読んだりして考えたこと感  
じたこと、その理由などを述べ合う

# 鹿嶋市教育DX（情報活用能力の育成）

ICTを最大限活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」  
Society5.0時代を生きる子供たちに相応しい、全ての児童生徒の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る

【Google Workspace for Education】

中学校プログラミング教材 Life is Tech!  
様々なアプリ

これまでの教育実践

ベストミックス

## ICTを活用した個別最適な学び

### 指導の個別化

児童生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行う。



例 板書の内容を、端末で撮る。  
学習のペースに合わせて活用する。

### 学習の個性化

児童生徒一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、児童生徒自身が学習を調整・最適化する。



例 自分が探究したいことを調べる。  
自分で課題を決めて進める。

往還

## ICTを活用した協働的な学び

例 考えを瞬時に転送する



考えを瞬時に共有する



異なる視点から学ぶ



意見を交流する



## ICTの強みを生かした新しい学び

【AIドリルの活用】  
自身の課題に応じた学習



【スタディ・ログの活用】  
膨大なデータを蓄積  
評価への活用  
学習分析への活用

【シームレスな学び】  
場所を選ばない学び  
時間に制約がない学び  
オンデマンドによる反転学習など

## 2030年の社会と子供たちの未来のために

### 鹿嶋市情報教育推進リーダー研修

- ・「効果的にICTを活用した授業」のために
- ・「質の高い探究学習」のために
- ・「各学校の教員のICT活用指導力向上」のために



# 学習指導案作成における留意事項

1 各教科の指導案の様式については、県の様式（茨城県教育研修センターHP からダウンロードできる各教科の様式）を使い、学習指導案を作成してください。その際、文言や標記については、各教科の様式で示されているものを参考にしてください。

**以下(1)(2)(3)については、市として全教科必須とします。(1)(2)(3)～の表記は半角にする。**

(1) 指導計画は、**単元（題材）のまとめりを見通し作成**します。したがって、学習内容・活動の欄には、その時間に育成したい資質・能力や主体的・対話的で深い学びに関わる主な活動を入れます。

(2) 単元指導計画の1～2次〇時に「**単元（題材）を通した学習課題**」を記述してください。

家庭科の例 **自立した消費者となるためには、どのような消費行動をとればよいだろうか。**

(3) 単元指導計画の**本時部分を太線で囲み、内容や活動を詳しく示すとともに、評価及び評価方法等の欄に配慮事項などを加えるなど、**参観者に本時の学習の流れが分かるようにしてください。

2 特別支援学級の指導案の形式は、特別支援学級スタート応援ブック授業づくり編第3版 P.56～62 を確認して作成してください。そして、指導案の後に年間指導計画を添付してください。（鹿嶋市の特別支援教育、特別支援学級スタート応援ブック学級経営編第3版 P.18～22 参照）  
また、特別支援学級、通級指導教室ともに、指導案と個別の指導計画との整合を図ってください。昨年度の集合指導訪問の指導案を参考にしてください。

3 「学級活動」、「総合的な学習の時間」、「特別の教科 道徳」の指導案形式は、文部科学省や茨城県教育委員会等の資料を参考にしてください。

※「特別の教科 道徳」では、**教科書にない場合は**資料等の添付をお願いいたします。

## <教科の参考例>

第〇学年〇組 技術・家庭科（技術分野または家庭分野）学習指導案

指導者 \*\* \*\*

1 題材名 例「環境に優しい野菜作りにチャレンジ！」 B生物育成の技術  
例「自立した消費者となるために」 C消費生活・環境

2 題材の目標

教科によって、「題材」が「単元」となります。以下、同じ。

- (1) \*\*\*\*\*(知識及び技能)
- (2) \*\*\*\*\*(思考力、判断力、表現力等)
- (3) \*\*\*\*\*(学びに向かう力、人間性等)

題材の目標を基に、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）を参考に作成します。題材全体ではなく、「5 題材の指導計画」の表中に関するものを記載します。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
*****	*****	*****
*****	*****	*****
*****	*****	*****

4 題材について

(1) 題材観

中学校学習指導要領解説（技術・家庭編）において求められている資質・能力と設定した題材との関連について記述します。また、題材のねらいや他学年との関連を入れるなど、題材構想の意図について記述することが大切です。

(2) 生徒観

題材につながるこれまでの学び、小テストや技能テストなどの実態調査（できるだけ数値化したもの）から課題を明らかにします。そして、課題と関連する育成すべき資質・能力とは何かを明らかにします。

(3) 指導観

生徒観に書かれた課題を受け、題材のねらいに迫るための指導上の手立てを記述します。また、講じる手立ては、どの学習場面やどのような方法で行い、目指す生徒の姿になると考えられるのかについて記述することが大切です。（カリキュラム・マネジメントを意識した手立てなども入れていけると、なおよいでしょう）。

5 題材の指導計画（12時間扱い）【記入例：中学校家庭分野】

第1次・・・自分や家族の消費生活（5時間）

第2次・・・消費者としての責任ある消費行動（5時間）

本時に関わる指導のまとまりのみ表にして、前後の指導内容が分かるようにします。

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価及び評価方法等（・は指導上の留意点） ○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面
2	6	<p>自立した消費者となるためには、どのような消費行動をとればよいだろうか。</p> <p><b>「単元（題材）を通した学習課題」を記述します。</b></p> <p>学習課題</p> <p>***** *****</p> <p>育成したい資質・能力や主体的・対話的で深い学びに関わる主な活動を入れます。（※1）</p>				<p>○ 思：（学習活動に）向かっていない生徒を見取り、（活動に向かうための手立て）などの指導を行う。 【観察】</p> <p>◎ 知：（◎記録に残す評価場面までにこの段階では何を理解しているとよいのか）について見取り、理解していない生徒には（理解できる様にするための手立て）を講じる。 【ワークシート】</p>
		<p>観点別の学習状況についての評価は、毎回の授業ではなく題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、評価する場面を精選することが重要です。</p>				
		<p>まとめ</p>				<p>◎ 本時は強調して詳しく記述します。（※2）</p>
7	本時	<p><b>目標：消費者被害の事例を通して、消費者の基本的な権利と責任について理解する。</b></p> <p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <p>学習課題 通学用の自転車購入の事例には、どのような消費者の権利と責任が関わっているのだろうか。</p> <p>2 消費者被害にあった事例について問題点をデジタルホワイトボードの付せん機能で表し、発表する。 &lt;予想される生徒の反応&gt; ・ブレーキがききにくい。</p>				<p>◎ 本時の目標をゴシック体で記述します。</p> <p>・前時の学習を振り返り、消費者の八つの権利と五つの責任について確認する。</p> <p>◎ 目標を達成するための学習課題を設定します。</p> <p>・購入した自転車についての情報を確認する。</p> <p>◎ 思：（◎記録に残す評価場面までに、この段階では思考・判断・表現しているとよいのか）について見取り、できてい</p>



<p>・返品ができない。</p> <p>3 事例の問題点に関わる「消費者の権利」・「消費者の責任」を考え、学習カードに記録する。        &lt;予想される生徒の反応&gt;        ・ブレーキのききにくさは、安全が確保される権利にあてはまる。        ・返品ができないのは、被害が救済される権利にあてはまる。        ・事故を起こす可能性があることを販売業者に伝えるのは、主張し行動する責任にあてはまる。</p> <p>4 本時のまとめを記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">         まとめ (例)          消費者の「安全が確保される権利」と、「主張し行動する責任」が関わっている。       </div> <p>5 本時までを振り返り、分かったことを自分の言葉でまとめる。        &lt;期待される記述の例&gt;        ・消費者の権利と責任は、消費者被害の拡大を防ぐことにつながる。</p>	<p>◎</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">         学習活動と評価が一致するようにします。       </div>	<p>ない生徒には（できるようにするための手立て）を講じる。 【観察】</p> <p>・一つの問題点に関わる消費者の権利や責任は一つではなく、複数ある場合もあることに気付くようにする。</p> <p>知：～について理解している。 【学習カード】</p> <p>・消費者の権利と責任は、消費者被害の拡大を防ぐことにも関わっていることに気付くようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">         まとめと振り返りは違いますので注意しましょう。       </div>
<p>8</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">         学習課題       </div> <p>・*****</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">         正対します。       </div> <p>・*****</p> <p>・*****</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">         まとめ       </div>	<p>○</p> <p>◎</p>	<p>知：（◎記録に残す評価場面までにこの段階では何を理解しているとよいのか）について見取り、理解していない生徒には（理解できる様にするための手立て）を講じる。 【ワークシート】</p> <p>知：～できる。 【観察・ワークシート】</p>
<p>9 10</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">         学習課題       </div> <p>・*****</p> <p>・*****</p> <p>・*****</p> <p>・*****</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">         まとめ       </div> <p>・*****</p>	<p>◎</p> <p>◎</p>	<p>思：～している。 【ワークシート】</p> <p>◎ 態：～しようとしている。 【ワークシート、観察】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">         題材を通して何を学んだか、生徒が振り返られる時間を設けます。       </div>

第3次・・・自立した消費者になるために（2時間）